



地域連携室便り
愛媛県立中央病院
地域医療連携室
No.37 (2023年6月)
 直通TEL 089-987-6270 (前方連携)
 089-947-1165 (後方連携)
 FAX 089-987-6271

向暑の候、皆様におかれましては、ますますご健勝のこととお慶び申し上げます。

さて、この度 地域連携室便り No. 37 6月 を刊行いたしました。気軽に読んでいただけるようにと
 考えておりますが、皆様方からのご意見をいただければ幸いです。聞きたいこと・知りたいこと等、ぜひ
 お知らせください。この機会にぜひメール登録をよろしく願いいたします。

今回の内容

- ① 皆様、よろしく願いいたします 西田舞衣
- ② 新副院長ご挨拶 椿雅光
- ③ 診療科紹介 (感染症内科) 本間義人
- ④ 第126回医療連携懇話会「めまいについて考える」を終えて 岩田真治
- ⑤ 文句の多い医者をつぶやき 岡本賢二郎
- ⑥ 地域医療連携室からのお知らせ～登録お申し込み方法について～

皆様、よろしく願いいたします

地域医療連携室 看護師 西田 舞衣

4月より地域医療連携室に異動となりました、西田舞衣です。

私は、愛媛県松山市の出身で当院で生まれました。高校卒業後より関東圏で過ごし、7年程働いた
 後、新病院に移転した2013年に当院へ入職しました。異動前は12西病棟で勤務し、内科や外科、さま
 ざまな疾患や病状の患者さまと関わる中で、多様な社会背景や生活状況などから多職種連携や在宅支
 援の重要性を実感しております。

まだまだ未熟ではありますが、患者さまやご家族さまの思いや希望に
 沿いながら、お力になれるよう精進してまいります。どうぞよろしく
 お願いいたします。



① 新副院長ご挨拶

副院長

医療情報部長・働き方改革推進室長 患者支援室長 消化器外科 椿 雅光



皆さま、こんにちは。令和5年4月に副院長を拝命いたしました椿雅光（つばきまさみつ）と申します。私は昭和37年生まれ、松山市出身です。愛媛県立松山東高等学校を経て昭和57年に愛媛大学医学部に入学、昭和63年3月に卒業し、同年4月に愛媛大学医学部外科学第一教室に入局しました。1年目は愛媛大学（外科8か月間と麻酔科4か月間）で、2年目は県立中央病院（外科）で研修しました。平成2年に社団更生会村上記念病院（愛媛県西条市）、平成4年に県立今治病院に赴任しました。

以後平成6年に北宇和、平成13年に伊予三島、平成15年に中央（癌研究会附属病院消化器外科に3か月間国内留学）、平成16年に三島、平成17年に中央（半年間南宇和出張）、平成24年に今治と異動し、平成26年より中央病院に勤務しております。令和4年に医局長になり、この度副院長を任されることになりました。愛媛県立病院には研修医時代を含めると32年間勤務したことになります。私が主に担当するのは、昨年度に引き続き医療情報部門、働き方改革推進部門、患者支援部門（総合患者相談窓口）の三つです。

仕事とは全く関係ない話ですが、私の趣味の一つに「ピザ作り」というのがあります。約10年前から地域の方々と一緒にやっています。強力粉1kg、塩、砂糖、ドライイースト、水、オリーブオイルを混ぜてよくこね、生地を作ります。一晚寝かせると生地は程よく発酵します。これを11～12等分します。生地を薄く延ばし、アルミ皿にのせ、その上にピザソースを塗り、カットトマト、ピーマン、たまねぎ、ウインナーまたはベーコン、チーズをのせます。耐火煉瓦（レンガ）を300個ほど使って組み上げたピザ窯で薪と炭を使って3分ほど焼きます。窯の温度は約350度で、ピザはカリッと焼きあがります。一度に4枚のピザを焼くことができる大型の窯です。自画自賛ですが、何回食べても美味しいです。

今までいろいろと試行錯誤を繰り返しました。例えば、ごく普通の小麦粉と高級小麦粉、強力粉と薄力粉の配合、水の量、オリーブオイルの品質と量、ベーコンやチーズの種類と量、薪や炭の種類や比率など、様々な検討を行いました。小学校で言えば、理科と家庭科の自由研究です。

薪はクヌギが適していました。火持ちがとても良いからです。少量の炭を併用することで火が安定し、温度管理が容易であることもわかりました。オリーブオイルは比較的高品質なものがよかったです。香りがとても良いのです。逆に、値段の高い小麦粉を使っても、期待したほどの味の差はなく、ベーコンやチーズを多くのせても味が濃厚になり過ぎました。重要なことは、生地作り、具材の種類と量、焼き方などのバランスでした。単に一部の食材に超高級品を使ったり、備長炭を使ったりしても、経費がかかる割には効果が限定的です。

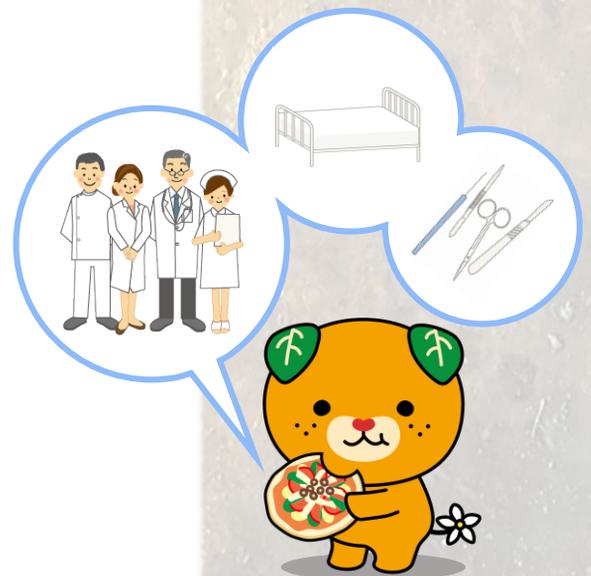
このバランスというのは、様々な場面で有効な考え方と思います。例えば、病院の医療資源においては、職員数と病床数・手術数等のバランスです。主に医師・看護師等の職員数で業務量は決まります。そして、職員一人一人にとってはワーク・ライフ・バランスです。職員一人当たりの業務量にも限りがあります。たとえ医療機関であっても、他の業種と同じくこのようなバランスの上に成り立っていると考えられます。

令和6年4月から法律により、医師の時間外労働時間が原則として年間960時間以内に規制されます。一月換算では80時間で、いわゆる過労死ラインといわれているものです。

働き方改革は単に時間外勤務を縮減することではありません。第一義的には時間外勤務を減らすことにより医師をはじめとする全職員の健康を守ることですが、この改革を通じて、病院の役割を再認識し、院内外の医療資源を有効に活用しつつ、地域での診療機能の調整を進め、地域全体の安心安全を目指すことが大切です。すなわち「病院機能分担」と「地域完結型医療」です。

質の高い持続可能な高度急性期医療を提供するため、これらのことについて何とぞ皆さまのご理解とご協力をお願い申し上げます。

最後に、私のもう一つの趣味はアマチュア無線です。主にモールス通信とデジタル通信をしています。デジタル通信では、比較的簡単な設備で国内だけでなく世界の人々と交信できます。同好の方がいらっしゃいましたら、是非お知らせください。



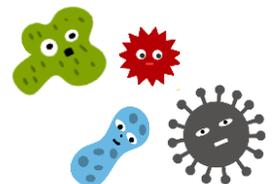
②診療科紹介（感染症内科）

感染症内科 主任部長 本間 義人

当院の感染症内科は、2021年4月に新しく開設された診療科です。現在、2名の医師が月平均50名の入院患者さんの感染症治療に力を注いでいます。朝一番には、血液培養陽性になった患者さんのカルテ情報をチェックし、主治医と相談しながら、抗菌薬の適切性や治療の適切性を確認しています。患者さんの状態が不安定で緊急を要する場合には、グラム染色や質量分析、そして数年前に導入したフィルムアレイなどの遺伝子検査を用いて、病原菌の同定を行います。早い段階で適切な抗菌薬治療がされることで、敗血症や菌血症患者さんの予後が良くなることが知られており治療の最適化に貢献しています。そしてその後、治療期間や合併症、有害事象が起きた際の薬剤の変更について主治医と相談しながら一緒に併診しています。また、広域抗菌薬を使用すると院内全体で薬剤耐性菌の発生リスクやクロストリジオイデスディフィシル感染症の発生リスクが高まることが明らかになっており、敗血症で入院され、その後状態が安定した患者さんでは、カルバペネム系抗菌薬を他の薬剤に変更することで使用量を減らすことにも貢献しています。広域抗菌薬は薬価が高い薬剤が多く、結果的ですが抗菌薬のコスト削減にも寄与しています。

コンサルテーションについては頻繁に発熱患者の診断や治療について相談を受けます。特に、原因がわからない不明熱や感染症と腫瘍熱との区別がつきにくい症例について相談があります。また、緑膿菌やMRSAなどの薬剤耐性菌の感染症、新型コロナウイルス感染症の治療に困った患者さんについても相談を受け、方向性が見えるまで一緒に併診しています。新型コロナウイルス感染症の流行期には、院内でもクラスターが発生することがありましたが、そのような場合には感染制御室のスタッフと協力して、患者の治療や感染拡大を防ぐための戦略を策定しています。

また、学生や研修医、抗菌薬適正使用チームの薬剤師の教育も担当しています。学生や研修医の先生に回診に同行してもらい、診察方法や鑑別疾患の考え方を教えています。また論文の読み方やプレゼンテーションの技術についても指導しています。感染症内科がない病院では、薬剤師さんが主治医からの抗菌薬の相談を受け付ける施設も多いと思います。薬剤師さんにも時折、回診に同行してもらい実際の患者さんを治療していく中でどのような経過をたどるのかを学んでもらっています。このように感染症に関わる次世代の医療従事者の育成に努めています。



③ 第126回医療連携懇話会「めまいについて考える」を終えて

脳神経外科 主任部長・脊椎脊髄センター長 岩田 真治

第126回医療連携懇話会は令和5年5月10日に、当院講堂およびWebによるハイブリッド形式にて開催されました。現地およびWebにて非常にたくさんのご参加をいただきありがとうございました。今回は日常診療でよく遭遇する「めまい」をとりあげ、「めまいについて考える」をテーマとさせていただきました。そこで、めまいに関係する3つの診療科からご講演を賜りました。

まず初めに脳神経内科主任部長の岡本憲省先生から「眼振からみためまいの病態」という演題でご講演いただきました。めまいは大きく分けると、中枢性めまいと末梢性めまいに分類され、中枢性めまいでは眼球運動障害・顔面の感覚障害・頸部以下の解離性感覚障害・小脳性運動失調・構音障害などを伴うことが多く、これらを見逃さないことが重要とのことです。さらに、めまいの際に起こる眼振について、眼振の診察方法、臨床的意義、発症のメカニズムについて詳細に説明していただきました。また眼振のパターンで病変部位を推察することが可能とのことで、改めて眼振の奥深さについて認識させられました。今後の外来診療に活かしていこうと思いました。

次いで耳鼻咽喉科・頭頸部外科主任部長の本多伸光先生から「耳鼻咽喉科外来でのめまい診療の進め方-代表的疾患を中心に-」という演題でご講演いただきました。まず、めまいの問診のポイントについて、症候・頻度・いつから・きっかけ・蝸牛症状の随伴・神経学的随伴症状・増悪因子・持続時間を挙げられ、その中でも、めまいの持続時間が鑑別に重要だとのことでした。次にめまいを来す代表的疾患である、良性発作性頭位めまい症、メニエール病、前庭神経炎の診断・治療についてもわかりやすく解説していただきました。良性発作性頭位めまい症の治療では、耳石置換法（Epley法）について動画を用いて解説していただきました。

最後に脳卒中センター長の大上史朗先生から「めまいを起こす脳腫瘍」という演題でご講演をいただきました。脳腫瘍の中でめまいを起こしやすい、聴神経腫瘍や小脳橋角部髄膜腫、小脳実質内腫瘍（小脳血管芽腫、転移性脳腫瘍、神経膠腫など）の診断・治療について説明していただきました。聴神経腫瘍の場合、早期に手術を行えば、顔面神経機能や聴力温存が可能であるとのことでした。また脳腫瘍以外にも小脳梗塞や小脳出血などでもめまいを来すことがあり、診断の遅れは生命にかかわることから、早期の画像診断が必要とのことでした。さらに愛媛県内で初めて導入された外視鏡システムの紹介があり、高画質3D映像を大画面モニターで観察することにより、手術精度の向上、術者の負担軽減が見込まれるとのことでした。

以上、3名の先生方の発表を終え、会場では活発な質疑応答が行われました。出席者からのアンケートでも講演内容は期待通りで、ほぼ理解できたとの回答をいただいております。有意義な会であったと思われれます。今後、めまい診療で難渋している症例がございましたら、当院へご紹介いただければ幸いです。

文句の多い医者をつぶやき

⑤「自分の体に文句を言いたい」 医局長・泌尿器科 岡本 賢二郎

癸卯

今年はお癸卯（みずのとう）。十干十二支の話だが有名な丙午（ひのえうま）では迷信のため57年前の出生数が大幅減少したことで知られる。

私事で恐縮だが、癸卯生まれで還暦にあたる。10と12の最小公倍数60年で暦が一巡し還ることで還暦なのだが、赤子に還る意味もあると聞き泌尿器科的に合点したことがあった。

小学校時代の記憶だ。校長先生がいつも急いで歩きながらトイレのずっと手前でズボンのファスナーをおろしていた。見るたびに友と大笑いしていたものだが、今になって考えると医学的には過活動膀胱だったのだろう。排尿反射が強くなり、尿意が切迫する。生理学的には膀胱の赤子還りといってもよい。

そして今、自分も同様な状況となり頻尿のため外来中スタッフに笑われる。因果応報が還暦に還ってきたようで校長先生には笑ったことを謝りたい気持ちでいっぱいだ。ただトイレ手前でファスナーをおろすことは法に抵触する可能性もあり控えたいと思っている。

⑥地域医療連携室からのお知らせ

今後各種ご案内やお知らせ（医療連携懇話会案内・地域連携室便りなど）はメール配信を推奨させていただきますと考えております。他、県立中央病院ホームページのタイムリーな更新情報も順次配信予定です。メールでの配信を希望される医療機関様につきましては、お手数ですが、下記メールアドレスへ医療機関名を記載し、送信をお願いいたします。



ご意見
ご希望

<件名>メール登録（医療機関名）<本文>・医療機関住所、電話番号

E-Mail : c-renkei@eph.pref.ehime.jp

メールのご登録で…

医療連携懇話会の
動画配信が半年間
ご覧いただけます！



動画配信
3つの
ポイント！



①
好きな
時間に



②
繰返し
再生！



③
3密
回避



※ 懇話会動画視聴のみご希望の方もご登録できます。ぜひお申し込みください。

お問い合わせ

：愛媛県立中央病院 地域医療連携室 <担当>箱岡・三好



：TEL : 089-947-1111(代) FAX : 089-987-6271 E-mail : c-renkei@eph.pref.ehime.jp

次回の医療連携懇話会のお知らせ

第128回医療連携懇話会 「糖尿病・内分泌疾患の最近のトピックス」

日時 令和 5年 7月12日(水) 19:00~20:00

座長 糖尿病・内分泌内科 戎井 理

内容 「糖尿病とオーラルフレイル～理学療法士の立場から～」

リハビリテーション部 理学療法士 天野 貴裕

「新しくなった原発性アルドステロン症診療ガイドライン2021」

糖尿病・内分泌内科 部長 明坂 和幸

「免疫チェックポイント阻害薬による内分泌代謝異常」

糖尿病・内分泌内科 部長 宮内 省蔵

<リンク先> 愛媛県立中央病院ホームページ

お申込・詳細はコチラから [Click!](#)



媛さくらネット

地域医療連携ネットワークサービス 媛さくらネット

<現在閲覧できる項目>

閲覧
無料

・処方・注射・検体検査・病名・退院時サマリー
・画像（放射線、エコー、生理検査）
・循環器動画・放射線画像診断レポート

（2021年11月1日以降の情報） （2022年3月1日以降の情報）

<リンク先> 愛媛県立中央病院ホームページ

お申込・詳細はコチラから [Click!](#)

地域連携室便り

次回7月号(No.38)は7月中旬頃刊行の
予定です。お楽しみに！

メール登録のご案内

地域医療連携室では各種ご案内やお知らせのメール配信を推奨させていただいております。

登録していただくと…

**限定公開！
医療連携懇話会動画を
ご覧いただけます！**



さらに

**医療連携懇話会のご案内、
地域連携室便りの更新が届きます！**



**ホームページのタイムリーな
更新情報等もお知らせ予定です！**



動画視聴のみ希望される医療機関関係者の方のご登録も受け付けております

【お申し込み方法】

①メールからのお申し込み

申し込み先メールアドレスへ、以下を記載し送信してください。

<件名> メール登録（医療機関名）

<本文> 医療機関住所・電話番号

※動画視聴のみの希望の場合は「動画のみ」と記載をお願いします。

申し込み先メールアドレス : c-renkei@eph.pref.ehime.jp

②この用紙でのお申し込み

以下にご記入をお願いいたします。

<医療機関名> _____

<医療機関住所> _____

<電話番号> _____

※動画視聴のみ希望の場合はチェックをお願いします。 動画のみ希望

<メールアドレス>

登録するメールアドレスのご記入、またはチェックをお願いします。

_____ @ _____

今回の医療連携懇話会に申し込んだメールアドレスを登録します。